

ケベック<sup>1</sup>のいくつかの地名の新たなカタカナ表記に向けて

リシャール・ルクレル

Ph.D. インディペンダント・リサーチャー

シルリー (ケベック)

この小論の目的は、ケベックの地名の日本語表記を、ケベック地名委員会が採用した正式地名や国連地名標準化会議での決議を尊重した表記に改めることを提言することである。

現在、ジル・ヴィニョーの国<sup>2</sup>であるケベックのいくつかの地名は、ケベックの魅力を紹介する日本の観光関連出版物においては、英語での発音に従ってカタカナ表記されている。この状況においては、ケベックを訪れる日本人観光客にケベック社会の真正な姿を伝えることはできない。

#### 地名：領土についての民族のアイデンティティを示すための道具

日本人の中には、北米大陸には760万人もの住民で構成される一つの民族が、1、667、441キロ平方メートルもの領土、つまり、日本列島の面積の4.6倍もの領土に現在暮らし、フランス王の名の下に、フランス人探検家ジャック・カルチエ（1491-1557）が領有を宣言した1534年以来文化と言語を独自に守り続けている<sup>iii</sup>が、そのことを知らない者もいる。今日、風景や気候が北海道に似ているこの国は、まだあまり人が住んでいない。人口密度は一平方キロメートル当たり4.6人でしかなく、日本の人口密度である350.3人に比べると、人口密度が非常に低い<sup>iii</sup>。

ケベックの実際の姿は日本ではあまり知られていない。ヌーヴェル＝フランスの急速な人口増加を望んだフランス王がてこ入れするなか、将来性のあるこの土地に惹かれ、フランスから来た最初の植民者たちは、より良い将来を望んで、17世紀初頭からこの新たな土地に移住した。今日のケベックはフランス語

<sup>1</sup> 訳注 本論では、Le Québec をケベックと表記する。

<sup>2</sup> 訳注 ジル・ヴィニョー Gilles Vigneault（1928年10月27日生まれ）は、ケベックの著名な芸術家である。詩人、物語作者、歌手、作曲家として活動している。

使用の国（ナション）である。ケベックの人々は、自分たちの過去を誇りとし、社会言語的共同遺産が領土を表すよう、数世代にわたって、フランス語の地名を用いてきた。

ケベックへの旅行を扱う日本の旅行者（JTB、日通旅行、プレイガイドツアーなど）によるケベックの観光案内のパンフレットやウェブサイトと一般的な観光案内書を調べると、これらの出版物で用いられている地名と公式の地名の間に歴然とした違いがあることがわかる。たとえば、イースタン・タウンシップス、ローレンシャン、モントリオール、マウント・ロイヤル、マウント・トランブラン、ニューフランス、オールド・モントリオール、ケベック・シティ、セント・ローレンス川は、これらの出版物で一般に用いられている外名である。

現在、日本の観光関連出版物の大部分が採用しているカタカナ表記は、国連地名標準化会議で採択された幾つもの決議に準じていない。こういうわけで、ケベックの主要な地名はすべて、日本語に移された外名を通じて、『国は、教育機関・運輸業者・メディアのような公共・私的組織が、出版物において、外名を使うことを減らし、少なくとも、今後は、標準化された現地で使われる地名（つまり内名）を用いるよう、説得するために努力を強化する』<sup>iv</sup>ことを勧告する第5回会議の第13決議（1987年）にもかかわらず、英語化されているのである。

英語の情報源をしばしば用いているので、日本の旅行者や翻訳者は、無意識のうちに、ケベックの言語的特殊性を無視するに至っている。幸いなことに、この現状は、この件について国際基準を尊重している、日本で出版されている世界地図の類では、『地名の国際的標準化の一環として、一国の内部に完全に位置している地理的実体を指示するのに用いられている外名の使用は大至急できる限り制限される』<sup>v</sup>ことを奨励する第2回会議の第29決議（1972年）にもかかわらず、現用の地名（モンリアル）に比べていつも人気があるモントリオールを除いては、確認されなかった。

これらの現状にたいして、ケベックの遺産の重要な一要素の文化的側面を失わせるような現行の表記を

廃し、ケベックの地名をフランス語化した表記に書きかえることを目指し、地名表記に関する取り決めを尊重するよう働きかけることが必要である。

### ケベックの地名の新しいカタカナ表記のために

ケベックのいくつかの地名のフランス語読み表記が日本語には現在存在していないことを鑑み、公的に用いられているケベックの地名と調和する地名表記を提案したい。<sup>3</sup>

表1は、現在の圧倒的状況と、日本で流通している観光関連書類で使われているケベックの主要な地名のカタカナ表記をフランス語化できるような新しい表記案を示している。フランス語と日本語の間に音声の違いがあるので、これらの地名のもともとの発音がよく伝わるようなカタカナでの書きかえを提案する。

表1

現在の カタカナ表記	カタカナが示す 地名（英名）	公的な地名 <sup>vi</sup> （仏名）	新しく提案する カタカナ表記
イースタン・タウンシップス	Eastern Townships	Estrie	エストリ
モントリオール	Montreal	Montréal	モンリアル
マウント・ロイヤル	Mount Royal	Mont-Royal	モン＝ロワイヤル
マウント・トランブラン	Mount Tremblant	Mont-Tremblant	モン＝トランブラン
ニューフランス	New France	Nouvelle-France	ヌーヴェル＝フランス
オールド・モントリオール	Old Montreal	Vieux-Montréal	ヴュー＝モンリアル
オールド・ケベック	Old Quebec	Vieux-Québec	ヴュー＝ケベック
ケベック・シティ	Quebec City	Québec	ケベック市

<sup>3</sup> 訳注この段落の後、一段落がカタカナの説明に当てられているが、日本語を解するこの翻訳の読者には不要とみなし、割愛した。

セント＝ローレンス川	Saint Lawrence River	Fleuve Saint-Laurent	サン＝ローラン川 <sup>vii</sup>
ローレンシャン	The Laurentians	Laurentides	ローランチッド

## 結語

国連の決議に従い、ケベック政府公認の地名に一致しているゆえに、これらの新しい地名表記を採用すれば、日本において、ケベックの違いがよりよく伝わるであろう。

これらのカタカナ表記に改正されれば、日本の数多くの旅行代理店や書店で手に入る観光関連出版物を通じて日本に紹介されているケベックのしばしば曖昧なイメージを立て直すことができるだろうから、有益であろう。

古川和美訳

<sup>i</sup> 原註 地名についての国連の専門家集団 (GENUNG). 1967年、1972年、1977年、1982年、1987年、1992年、1998年、2002年の8回の国連地名標準化会議で採択された決議。第22回 GENUNG セッションのためにカナダ天然資源省が準備した資料 GEN/22/ (b). ニューヨーク、2004年。インターネット上の文書

<[http://unstats.un.org/unsd/geoinfo/UNGEGN/docs/9th-uncsgn-docs/econf/9th\\_UNCSGN\\_e-conf-98-80-add1-fr.pdf](http://unstats.un.org/unsd/geoinfo/UNGEGN/docs/9th-uncsgn-docs/econf/9th_UNCSGN_e-conf-98-80-add1-fr.pdf)>

<sup>ii</sup> 原註 ケベック統計院. 世界の中のケベック, 社会経済的統計. ケベック, 2005年9月.

インターネット上の文書 <[http://www.stat.gouv.qc.ca/publications/comparaisons\\_econo/que\\_monde.htm](http://www.stat.gouv.qc.ca/publications/comparaisons_econo/que_monde.htm)> p.152.

<sup>iii</sup> 原註 同書, p.136 と p.152.

<sup>iv</sup> 原註 GENUNG 前掲書. p.81.

<sup>v</sup> 原註 同書. p.76

<sup>vi</sup> 原註 ケベック地名委員会. インターネット上の地名. ケベック, 2005. インターネット上のデータベース

<<http://www.toponymie.gouv.qc.ca/ct/ToposWeb/recherche.aspx?avancer=non>>

ヌーヴェル＝フランスとビュー＝モンレアルという地名については、ケベック地名委員会では、公的に認められなかった歴史的な呼称であることを記しておく。

<sup>vii</sup> 原註 漢字の「川」「市」は、フランス語で「川」「市」を意味するが、ここでは、書き替えではなく、むしろ地理的実体を示す日本語の用語である。